



**冬の手洗いはお湯で  
しっかり洗いたい！**  
ストラットン恵美子(久比岐野)



**問**／新型コロナウイルス感染症対策のため、小中学校の手洗い場の温水化を検討すべきでは。

**答**／上越市立小中学校の手洗い場や、トイレ手洗い場の自動水洗化工事について、いずれもお湯が出る仕様とはなっていない。学校施設の老朽化に伴う改修工事が優先であり、温水化は当面見送らざるを得ないものと考えている。

**市内の多頭飼育崩壊問題の現状は**

**問**／福祉的背景を伴う多頭飼育崩壊問題では、行政と民間の愛護団体等を含む多機関連携が何より大切だが、上越市の現状はどうか。

**答**／県の上越動物保護管理センターが10頭以上の猫を引き取った「多頭引取り」は、令和元々3年度で5件、平成26、29年度には、1件当たり40頭以上の多頭飼育崩壊が発生した。広報上で動物愛護の特集を組み、不妊去勢手術や室内飼育の重要性等について、周知、啓発を図ってきた。今後も多頭飼育崩壊を未然に防ぐため、関係機関と連携し動物愛護に取り組む。

**温泉施設維持のために入湯税で財源確保を**

**問**／当市の入湯税の金額見直しの予定はあるか。  
**答**／より多くの市民から健康増進や心身のリフレッシュ等で気軽に利用していただく政策的な判断から、現時点で税額は上げない考えである。



**「地域の宝」  
どう取り組むのか**  
本山 正人(みらい)



**問**／「地域の宝」は現在86件認定されており、今後が増えると思うが、どのように取り組んでいくのか。また、「宝」によっては市の財政支援が必要と考えるがどうか。

**答**／次世代を担う子どもたちへの継承を図り、地域への誇りや愛着を育んでいく。その創設趣旨から、財政支援については想定していないが、内容によっては別途支援するケースもあり得るため、その在り方について検討していく。

**観光振興に関して中山間地域を含めた観光を**

**問**／通年観光プロジェクトは「雁木町家や寺町の街並み」「楽しめるまち直江津」「春日山城を観光地に」を三本柱としているが、各区にも特色ある観光スポットがある。偏重なく回遊できるよう、力を入れるべきと考えるがどうか。

**答**／通年観光プロジェクトでは、揚げている三本柱で来訪者を受け入れる仕組みを整理している。中山間地域においては茅葺集落<sup>かやぶき</sup>の整備を検討していきたい。

**問**／ウィズコロナ時代においては、「新しい観光」を考え、地域との関係性や取組の支援を強化すべきと考えるがどうか。

**答**／観光に対するニーズが「質」重視に変容している。オンライン体験等の新たな観光コンテンツを作り、国内外に発信し、誘客につなげたい。



**「協働」のまちづくりの  
在り方は**  
栗田 英明(政新クラブ)



**問**／市長は、目指すまちづくりの視点に「共創の推進」を掲げた。共創は、上越市の自治の基本原則である「協働」を進化させたものとのことであるが、違いは何か。

**答**／協働は、それぞれの主体が対等な立場で協力して働き公共的な目的を果たすことであるが、共創は初期段階から多様な主体が参画し、効果的な取組につなげようという考え方である。

**地域協議会やまちづくり振興会等の協働は**

**問**／地域協議会は「協働の要」と位置付けられているが、どんな役割が求められるか。また、「共創の推進」の中では何が求められるか。

**答**／地域協議会には、地域の課題や活性化などを話し合い、地域の団体等と連携調整して課題解決等を実現していく役割が期待されている。今後は地域自治の強化を図るため、「共創の推進」に資する在り方を検討していく。

**問**／協働・共創の行政のパートナーの一つとしてまちづくり振興会等の住民組織があるが、その組織強化や財政面の支援が必要ではないか。

**答**／それぞれの住民組織の活動や運営実態は多様であるが、活動の継続に向け、人材や財源確保が課題となっていることは認識している。今後の役割や支援の在り方についても、地域自治推進プロジェクトの中で検討していく。